

Link Web IPU

URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/web-ipu>
本誌内容は、Webにも掲載しています。

平成23年度 岩手県立大学公開講座・滝沢キャンパス講座

いわての今を識る
～世界の中のいわて～

開催場所 岩手県立大学滝沢キャンパス
岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
※講師、タイトルは変更となる場合がありますので
ご了承ください。

受講者募集!
どなたでも参加いただけます!
事前にお申込みをお願いします。
受講無料

開催期間	平成23年 6/18～9/24(土曜日、全5日)	講義時間	10:00～12:00、13:15～15:15 講義開催1時間前から受付開始	開講式	6月18日(土) 13:00～13:15	閉講式	9月24日(土) 15:00～15:15
講座1	6月18日(土) 13:15～15:15 岩手で考える“自動車の今、これから” ■ 上田政博氏【アイシン・コムコース(株) 顧問】	講座4	8月6日(土) 10:00～12:00 今からできる健康づくりの秘訣 ～米国ノースカロライナ州と岩手の高血圧者の調査から～ ■ 菊池和子【看護学部 教授】	講座7	9月3日(土) 13:15～15:15 中世仏教都市平泉の特色 ～国際性との関連で～ ■ 菅田慶信【盛岡短期大学 教授】		
講座2	7月23日(土) 10:00～12:00 異常(とはいえない)気象 ～何を異常と言うのだろうか? 地球温暖化は本当?～ ■ 佐野嘉彦【総合政策学部 教授】	講座5	8月6日(土) 13:15～15:15 韓国の高齢者福祉を学ぶ ～ソウル老人福祉館の活動事例を中心として～ ■ 中尾美知子【社会福祉学部 教授】	講座8	9月24日(土) 13:00～15:00 遠野のグリーンツーリズム ■ 菊池新一氏 【NPO法人遠野山里暮らしネットワーク マネージャー】		
講座3	7月23日(土) 13:15～15:15 過去の災害から学ぶ ～発生のメカニズムから、減災方法、自然との共生まで～ ■ 伊藤英之【総合政策学部 准教授】	講座6	9月3日(土) 10:00～12:00 世界に目を向ける自治体 ～国際交流の現状と展望～ ■ 佐藤智子【共通教育センター 教授】				

お申込み先・お問合わせ先 岩手県立大学 地域連携室 〒020-0173 岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-89 TEL.019-694-3330
E-mail: kouza-11@ml.iwate-pu.ac.jp FAX.019-694-3331

特集1 東日本大震災
被災地と共に歩む岩手県立大学



TOPICS
IPU

》》 Campus Attendant (キャンパス・アテンダント)



学生による大学広報がスタート。5月28日に、接遇マナーやキャンパス施設などの研修会を開催し36名を Campus Attendant (キャンパス・アテンダント) として任命しました。大学見学にいらした方々へのキャンパスのご案内をはじめ、オープンキャンパスなどのイベント時の対応や、母校訪問などの活動を行います。

》》 優秀学生賞表彰



4月28日(木) 本部棟大会議室において「優秀学生賞表彰式」が行われました。特に優れた学業成績を収めた16名(うち2名は宮古キャンパス所属)の学生に対し、中村学長から賞状・記念品(表彰盾)・副賞が授与されました。

人事情報

● 転出 所属 氏名[転出先] (平成23年3月31日付)
教育研究支援室/主幹 瀧谷 昌二郎
[総務部 法務学事課/副主幹兼主査]
教育研究支援室/主査 加藤 肇
[商工労働観光部 商工企画室/主査]
学生支援室/学生支援室長 高橋 一夫
[秘書広報室 広聴広報課/総括課長]
地域連携室/地域連携課長 筒井 則裕
[県南広域振興局 県税部 花巻県税センター/特命課長]
地域連携室/主幹 佐藤 博行
[沿岸広域振興局 経営企画部
宮古地域振興センター/地域振興課長]
企画室/企画室長 熊谷 正和
[沿岸広域振興局 経営企画部/部長]
企画室/副参事兼総務財務課長 保原 良和
[県北広域振興局 経営企画部/管理主幹兼総務課長]
企画室/主査 中澤 洋二
[出納局/主査]
企画室/主査 天沼 秀隆
[出納局/主査]

企画室/主査 曾部 文宏
[商工労働観光部 企業立地推進課/主査]
企画室/主査 阿部 佳尚
[岩手県警察本部 交通部 交通規制課/安全施設第二係長]
企画室/主査 斎藤 辰也
[保健福祉部 障がい保健福祉課/主任]
宮古事務局/主査 花館 寿江
[岩手県教育委員会 宮古市立山口小学校/事務主任]
宮古事務局/主査 和美 尚
[沿岸広域振興局 水産部 宮古水産振興センター/主任]

● 転入 所属・職 氏名[前職] (平成23年4月1日付)
教育研究支援室/主幹 阿部 大作
[盛岡広域振興局 経営企画部/主任主査]
教育研究支援室/主査 阿部 恵一
[財団法人いわて産業振興センター/主査]
学生支援室/学生支援室長 寺本 樹生
[岩手県東京事務所/総務行政部長]
地域連携室/地域連携課長 滝澤 信一
[農林水産部 農林水産企画室/主任主査]
地域連携室/主査 細川 徹

[県南広域振興局 総務部/主査]
企画室/企画室長 宮野 孝志
[岩手県教育委員会事務局 教育企画室/学校施設課長]
企画室/企画課長 高橋 一志
[岩手県教育委員会事務局 教職員課/主任主査]
企画室/主査 藤澤 透
[総務部 法務学事課/主査]
企画室/主査 鈴木 静子
[岩手県教育委員会事務局 教育企画室/主査]
企画室/主査 鈴木 亨
[農林水産部 競馬改革推進室 盛岡市新庄駐在/主任]
企画室/主査 岩脇 操
[盛岡広域振興局 県税部/主査]
企画室/主査 高橋 永江
[農林水産部 林業振興課/主任]
企画室/主事 笹井 奈穂子
[出納局/主事]
宮古事務局/主査 山崎 達也
[沿岸広域振興局 経営企画部 宮古地域振興センター/主査]
宮古事務局/主事 坂本 悠
[盛岡広域振興局 県税部/主事]

CONTENTS

04 地域の中核人材育成と
活力創出に貢献する大学をめざす、
6つの重点計画

08 在校生紹介
10 県大YELLS
11 卒業生紹介
12 IPU通信

現地での活動状況



各自治体からの要請にもとづいた被災地域への支援

県立大学看護学部では、各自治体からの要請にもとづいた復興支援を展開しております。各教員の専門性をいかし、宮古市、釜石市などの被災地域の復興を支援するため、住民の健康や生活の状況を把握する活動などを進めています。



写真の洗浄

大槌町では、津波に流され崩壊した家屋などから発見された写真の洗浄を行いました。大切な家族の思い出の残る写真の泥を丁寧に洗い流し、復活させる作業に心をこめて懸命に取り組みました。



飲料水ペットボトルを被災地に搬送・配布

震災から2カ月を経てなお断水が続く陸前高田市広田半島の各世帯に向けて、飲料水ペットボトルを搬送・配布する作業を続けています。



出張ボランティアセンター

岩手県立大学学生ボランティアセンターは発災3日後に災害学生ボランティアセンター(以下VC)を開所。また釜石市、陸前高田市の災害VCの設置と運営支援に関わり、3/21～4/17の期間中シフトを組んで常時現地滞在しました。現地VCでのボランティア受付やコーディネートに関わった学生はのべ252名、避難所のニーズ調査や周辺のマップ作り、炊き出し団体のリスト作りやマッチングなど。現在も現地災害ボランティアセンターの即戦力として活動しています。



小学校の体育館清掃

日本ユニセフ協会及び盛岡大学と共同で「いわてっこ応援! unicef ボランティアバス」を運行し、学生・教職員が参加。この日は始業式を間近に控えた陸前高田市立高田小学校で体育館の床拭き作業などを行いました。



全国の学生の力を結集!

「いわてっこ応援! 学生ボランティアバス」を運行。4月には関西の大学生130名が本学に滞在し、一緒に子どもイベントを実施しました。5月の連休は13大学、のべ512名の学生ボランティアの参加も。今夏の「いわて GINGA-NET プロジェクト」にも期待! 公式HPは <http://www.iwateginga.net/>



東日本大震災 被災地と共に歩む岩手県立大学

～岩手県立大学は、岩手の復興に向けて県民の皆様と共に歩んで参ります。～

平成23年3月11日に発生した東日本大震災——この地震及び津波で被災した地域に対し、岩手県立大学ではこれまで蓄積してきた「知の資産」と学部特性などを最大限に活かし、積極的な支援活動を行っています。

教職員及び学生ボランティア活動、ならびに看護や福祉分野などの専門性を持つ教職員の派遣等による支援活動を、よ

り迅速かつ強力で推進するために「岩手県立大学災害支援センター」を新たに設置。さらに同じく本年度新設の「地域政策研究センター」に災害復興研究部門を立ち上げるなど、被災地の復興支援活動を強力に進め、岩手の復興に向けて県民の皆様と共に歩んで参ります。

中村学長が被災地11市町村を訪問



被災のお見舞いと復旧・復興に向けた本学の支援体制を説明するため、中村学長が県内被災地を訪問しました。久慈市から陸前高田市までの沿岸11市町村すべてを訪ね歩き、本学が被災市町村の復旧・復興に息長く取り組み、共に歩いていくことをお伝えしました。

震災直後



3月11日の東日本大震災直後、県立大学はいち早く大学を学生と地域住民のための避難所として開放。教職員が一丸となった支援活動が震災当日から始まりました。大学構内では、度重なる余震が続く中、教職員連携による避難者のための炊き出しが行われ、被災地情報の収集に努めました。

岩手県立大学の復興支援体制

災害復興支援センター

教職員および学生のボランティア活動、看護や福祉分野などの専門性を持つ教職員の派遣に関する総合窓口。また学内の調整も災害復興支援センターが対応。地域政策研究センター、学生ボランティアセンターとの連携を図りながら、6つの学部それぞれの特長を生かした支援活動や学部相互の連携を調整しています。

設置:平成23年4月5日(火)
センター長:細田 重憲准教授(社会福祉学部)
事務局:事務局企画室
TEL 019-694-2005

地域政策研究センター

大学の研究活動の成果を地域に還元する総合的なシンクタンク。県や市町村への政策提言やアドバイザーとしての役割を果たすために、学内研究者のコーディネートを行います。今回災害復興研究部門を立ち上げ、看護、福祉、情報、総合政策など、県立大学が得意とするソフトパワーを被災地の復興に活かします。

設置:平成23年4月1日(金)
センター長:豊島正幸教授(総合政策学部)
事務局:地域連携本部地域連携室
TEL 019-694-3330



支援ボランティアバスを運行

開学記念日にあたる6月19日(日)、岩手県立大学災害復興支援センターでは、宮古市までの復興支援ボランティアバスを運行。本学の学生や教職員に対し、これからのボランティア活動への参加を促す一助として、さらに、被害の大きかった宮古市にもキャンバスを持つ本学として、活動の裾野を拡げる基盤とすべく企画しました。継続した復興支援活動を目指す中で、参加したくても何をすれば良いかわからなかった人や、現地までの移動手段がなく参加を躊躇していた人たちにとって、大きな足がかりとなりました。

地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学をめざす 6つの重点計画

大学のめざす姿とは!

特集2

岩手県立大学は、今年3月で公立大学法人となってからの第一期（6年間）を終え、4月から第二期として新しい6年間の取り組みを開始しています。

第二期を迎えるにあたり、県から与えられた「**地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学**」になるという**中期目標を実現するため**、「学生を主人公とした教育（学生目線）」と「地域の活力を創出する研究と地域貢献（地域目線）」という基本姿勢のもと、第二期中期計画を策定。

平成23年4月1日から平成29年3月31日までの6年間の計画期間において、緊急性、重要性、継続性が高いと認められる**6つの計画を「重点計画」として**位置づけ、取り組みを進めています。

【計画の構造】

第二期 中期計画

全学共通の計画

全50項目

- I 大学の教育研究に関する目標を達成するための措置
 - 1 教育に関する目標を達成するための措置
 - (1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置
 - ア 入学者の受入れ 項目数 3
 - イ 基盤教育の強化 項目数 4
 - ウ 専門教育の充実 項目数 5
 - エ 教育力の向上 項目数 3
 - (2) 教育の質の向上等に関する目標を達成するための措置
 - ア 学習支援・学生生活支援の充実 項目数 4
 - イ 進路指導及び就職支援 項目数 3
 - 2 研究に関する目標を達成するための措置
 - (1) 研究の推進に関する目標を達成するための措置 項目数 2
 - (2) 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 項目数 3
 - 3 地域貢献、国際交流に関する目標を達成するための措置
 - (1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置
 - ア 産学公連携の強化 項目数 2
 - イ 県民のシンクタンク機能の強化 項目数 2
 - ウ 県民への学習機会などの提供 項目数 1
 - (2) 国際交流に関する目標を達成するための措置 項目数 2
 - II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 項目数 6
 - III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 項目数 4
 - IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 項目数 3
 - V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 項目数 3

※以上、全学共通の計画の中の合計50の項目が重点計画に関わる項目として位置づけられています。

学部等の計画

全学共通の計画（50項目）に対応する計画を学部・研究科ごとに策定しています。

学部・研究科

全学共通の計画に対応する学部・研究科の取り組みを策定

具体化

全学共通の計画(50項目)に対応する学部・研究科の計画

- 1 教育に関する学部等の計画
 - 教育の質の向上
 - 学生への支援
- 2 研究に関する学部等の計画
 - 研究の推進
 - 研究の質の向上
- 3 地域貢献・国際交流に関する学部等の計画
 - 産学公連携の強化
 - 県民のシンクタンク機能の強化

6つの重点計画

「学生を主人公とした教育（学生目線）」
「地域の活力を創出する研究と地域貢献（地域目線）」

重点計画

目的意識、学習意欲ある入学者の確保

体系的で一貫性のある教育プログラムの実施

就業力育成支援による高い就職率維持

地域に評価される研究推進、成果の公表

産学公連携の強化とシンクタンク機能の発揮

教育・研究に意欲的な教職員の育成

学生目線

地域目線

大学運営

下支え

重点計画の取組内容は6ページ参照

第二期中期目標

教育の質の保証
[中教審答申]

中期目標
「設置者（県）から指示」
地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学

大学が具体化

県との意見交換会
地域のニーズ

地域説明会・パブリックコメント

6つの重点計画と50の項目の全学共通計画

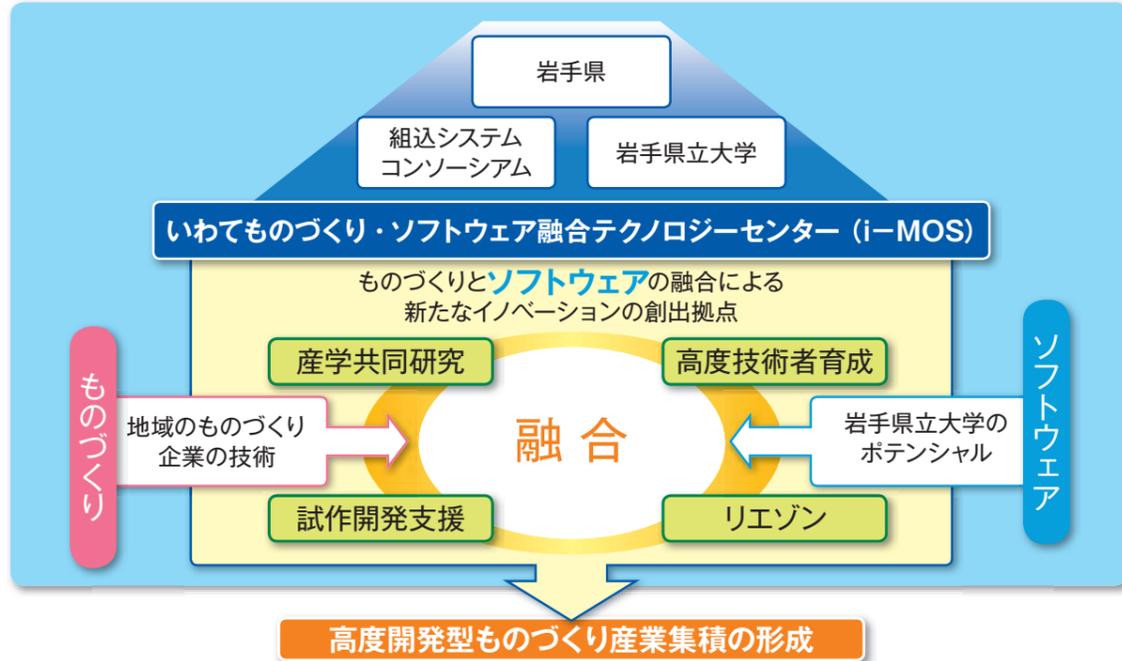
重点計画では、教育、研究・地域貢献、大学運営に関わる6つの取り組みを定めています。特に、地域貢献に関わる目標を達成するための重点計画として掲げた、産学公連携の強化と県民シンクタンク機能の強化は、今後の大学の方向性を大きく左右する重要な取組です。それぞれの取組は、50項目にわたる全学共通の計画に位置づけられ、重点的に取組が進められています。

2つのセンターを新設

第二期中期計画の基本姿勢のひとつ「地域の活力を創出する研究と地域貢献」を促進するための具体的な組織として新設した2つのセンター。地域産業との連携、地域社会の課題解決において積極的な活躍が期待されています。

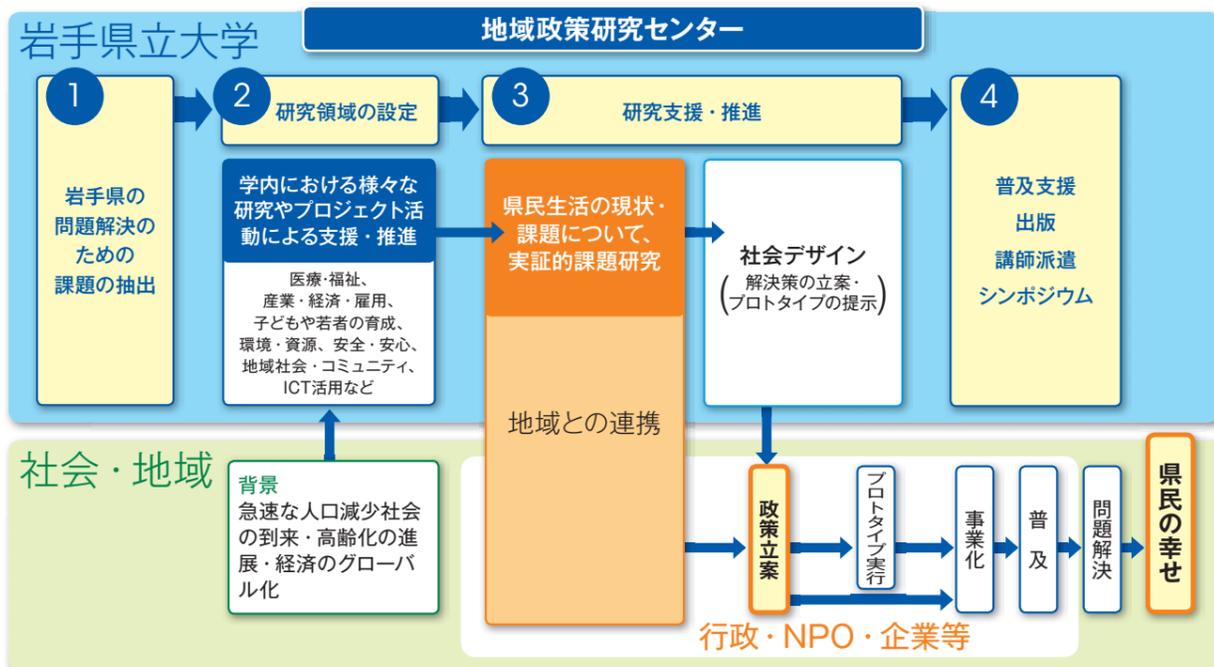
いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター (i-MOS^{くあいもす})

地域のものづくり企業が、県立大学などの有する優れたソフトウェア技術を導入・活用して技術力・競争力を高めることにより、ソフトウェアとハードウェアの高度技術を基盤とする岩手発の様々なイノベーションを創出する高度開発型ものづくり産業集積の形成を目的として、平成23年4月に設置しました。



地域政策研究センター

産業界や各種団体、行政機関との連携を強化し、「現状と課題」と「それを克服する政策や解決策」について実践的な認識を深め、住民との協働、行政の政策形成の支援などにより地域の活性化に寄与するため、平成23年4月に設置しました。また、東日本大震災を受けて、復興に向けた研究についても取り組んでいます。



重点計画の取組内容

第二期中期計画の6つの重点計画—各計画ごとの目標達成のための主な項目

地域の活力を創出する研究と地域貢献

計画 地域に評価される研究推進、成果の公表

- 達成目標
- 積極的な論文・学会発表
 - 多様な媒体を通じた研究成果の周知・活用

多様な地域課題に的確に対応するため、大学の独自性を生かした実践的な研究や専門分野の連携により複合的な研究を強化し、研究成果を地域社会に積極的に公開します。研究活動への教員のモチベーションを高めるなどし、地域に評価されるよう研究成果を生み出すよう努めます。

- 主な取組
- 1) 専門領域を活かした先進的研究を推進
 - 2) 研究成果の積極的な公開
 - 3) 研究テーマ発掘の奨励、成果への適切な評価

計画 産学公連携の強化とシンクタンク機能の発揮

- 達成目標
- 受託・共同研究の増加
 - 県民のシンクタンクとしての提言の増加

産業界、地域団体、自治体などと有機的に連携し、産学共同研究による新技術の開発、高度技術者の育成を積極的に進めます。また、地域が抱える課題解決の要請に応える実証研究を進め、地域に貢献する活動を強化します。

- 主な取組
- 1) 産業界、地域団体等との連携強化・情報交換・ニーズ把握
 - 2) 2つのセンターの設置(左ページ参照)
 - 3) 各学部等に蓄積された知的資源の活用

計画 教育・研究に意欲的な教職員の育成

- 達成目標
- 教職協働による学内の活性化

多様な人事制度を導入し、大学の特性、専門性に応じた優秀な教職員を確保・育成するとともに、適正な処遇を行います。学生の理解度が高まるよう不断に授業内容の充実を図り、教育の教育力の研鑽・向上を図ります。

- 主な取組
- 1) 適切な教員業績評価の実施
 - 2) 意欲的な教職員の募集・採用
 - 3) 県内外研究者、企業の実務経験者の活用
 - 4) 大学教育の質的向上、教職員の管理運営能力向上の活動の実施

学生を主人公とした教育

計画 目的意識、学習意欲ある入学者の確保

- 達成目標
- 国公立大学の全国平均を上回る受験倍率確保
 - 大学院の定員充足

岩手県内の子弟を中心に広く大学教育の機会を提供するとともに、魅力ある教育内容を充実させ、本学で学ぶ意欲をもつ意欲的な学生、本学の専門性に合った素質と学力を備えた学生を確保します。

- 主な取組
- 1) 求める学生像の明確化
 - 2) 大学の魅力を広く発信
 - 3) 特徴ある高大連携事業の強化

計画 体系的で一貫性のある教育プログラムの実施

- 達成目標
- 教育プログラムの検証・改善
 - 基盤教育と専門教育の最適な組み合わせによる学生満足度の向上

教養教育とキャリア教育を体系化した「基盤教育」を積極的に展開し、さらに「実学実践」の理念のもとに学生が主体的に現場でものを考え行動する力を身につける「高度な専門教育」を推進します。

- 主な取組
- 1) 導入教育・キャリア形成科目・語学教育の充実
 - 2) 県内全域をフィールドとした実践教育
 - 3) 厳格な成績評価

計画 就業力育成支援による高い就職率維持

- 達成目標
- 採用先企業や卒業生の進路に関する満足度・就職率の高水準維持
 - 県内への就職率向上

学生のキャリア意識を啓発し就業力を育成し、高い就職率の水準確保に加え、学生の県内への就職促進等により地域で活躍できる人材の確保に努めます。編入学、大学院進学についても適切な支援を行います。

- 主な取組
- 1) 自己評価システムの開発運用
 - 2) キャリアガイダンス、進路指導の充実
 - 3) 保健、医療、福祉分野への人材輩出
 - 4) 公務員受験者の支援
 - 5) 県内企業への情報提供
 - 6) 県内へのUターン希望者への支援

計画の詳細は、岩手県立大学ホームページをご覧ください。 <http://www.iwate-pu.ac.jp/information/info.html>

私の未来設計

On Campus

人と地域に寄りそい
その思いや心を見つめて
共に生きる道へ進みたいと
思います

社会福祉学部臨床福祉学科2年
佐藤 夏未さん



地域のために役立つ人になりたいと思いい県大へ

佐藤さんは、山田町の出身です。山田町には、関口剣舞という伝統芸能があります。関口剣舞は、雄壮で華麗な舞姿と、哀調な響きを帯びた太鼓と笛の音が特徴です。佐藤さんは、中学生の頃から関口剣舞の笛を担当し、地元の祭りなどで披露してきました。「中学から高校へ進学するとき、指導してくださった先生からは、町外の高校を薦めていただいたのですが、地元を離れる気にはなれませんでした。剣舞が好きだったし、剣舞の仲間がいる地元の高校に進みたいと思いい、山田高校に進みました」

高校進学後の佐藤さんは、何か地元の役に立つ人になりたいと願いい、地元のために自分は何ができるかを考え続けていました。

「剣舞の仲間たちや地域の人々が好きだからこそ、地域のために役立つ人になりたいと思いいました。漠然とですが、福祉の道に進みたいと思っていた私は、町が主催するカウンセリングや傾聴ボランティアの研修に参加しました。研修の中で、人の心に寄りそうことの大切さを知りました。いっしあ佐藤さんは、人の心に寄りそい、地元のために働きたいと願うようになっていきました。」

自分にも出来ることは何にでも挑戦したい

人の心に寄りそい、地元のために働きたいと願っていた佐藤さんは、入学当初から心理学を学ぶことを心に決めていました。「高校時代に接したカウンセリングに興味があり、きちんと心の問題を心理学とい

は全員無事でしたが、海辺近くにあった家は被害を受け、近くの小学校に避難しました。「自分も被災者なのですが、家族が無事でしたし、役場が支援体制を整える前だったので、すぐにも自分たちで地域を支援しようと思いいました」

佐藤さんは、「こどものこと。研究所」の活動で知りあった方々と協力しながら、地域の情報集めや支援物資の配給に夢中で取り組み続けました。「避難所では「ローソク、もう一本しかない」というような切実な声に伝えていきました。路上で支援物資を配ったりもしました。忙しく動き回る中で、自分も当事者だからこそ、同じ境遇の人を支えたい、支えあいたいという気持ちで活動してました。」

集まったみんなが元気になる場所づくりをしたいと思いいています

卒業後にどんな職業に就くかはまだ決めていないといっし佐藤さんですが、震災の被害を受けて、自分にとって、とても大きなテーマができたと感じています。「専門知識を身につけることが今の私にとってのやるべきことですが、将来は人の痛みを理解し、その人の明るい面を生かしながら共に生きる、そんな人になりたいと思いいています。今は、いろんな人が集まれる場所づくりができればいいなと考えています。集まったみんなが元気になる場所づくりです。お互いに知りあいい、話しあって、新しい自分を発見できるような時間が持てると思いいいます」

自分も被災者なのですが、

地域の情報集めや支援物資の配給に夢中で取り組み続けました。

忙しく動き回る中で、当事者だからこそ、同じ境遇の人を支えたい、支えあいたいという気持ちで活動してました。



佐藤さんは、震災直後、「こどものこと。研究所」のみなさんと一緒に山田町に支援物資を届ける活動に参加しました



佐藤さんは、ジャズバンドサークル「JAM!!!」でエレキベースを担当しています。



政策・情報交流会では、全国の学生と交流を深めることができました

う学問を通して学びたいと思いいています。専門的には、2年次後期から学ぶことになりましたが、学ぶべきことはたくさんあるなと感じています。自分にも出来ることは何にでも挑戦したいと思いいています」といっし佐藤さん。

積極的に大学や地域の活動に参加

「1年次の後期に発足した社会福祉学部学生会に参加し、副代表を務めています。学生会には、大学生活の中で感じている学生の課題を聞きながら、課題解決のための取り組みを進める役割があります」といっし佐藤さん。学生会の活動でも人の気持ちを聞くことを大切にしています。

1年次の夏には、総合政策学部系の学生が全国から集い開かれる「政策・情報学生交流会」（国立赤城青少年交流の家・群馬県）に参加しました。

「普段なら会うことのない全国の大学生と交流を深めることが出来ました。とても刺激的な4日間でした」

1年次の12月からは、子育て支援や地域づくりに取り組み「こどものこと。研究所」の活動に参加しています。「こどものこと。研究所」が主催し「馬っこパーク・いわて」で行われる子ども乗馬体験の手伝いや、子どもたちの心豊かな育ちを育む環境づくり活動に参加しています。

そして、3月11日。東日本大震災により三陸の沿岸は壊滅的な被害を受けました。被害の多くは、地震後に襲ってきた津波によるものです。佐藤さんの実家のある山田町も例外ではありません。佐藤さんの家族

夢を生きる 卒業生の今を知りたい CAREER MESSAGE

「メッセージ」

初心を忘れず職場の期待に応えたい

JA岩手県信連 資金部営業班 木村 瀬梨菜さん
●盛岡短期大学国際文化学科 [平成21年3月卒]

木村さんは、現在、JAバンク岩手グループのJA岩手県信連窓口で銀行業務に携わっています。最初の1年は、諸先輩の指導の下に、社会人としてのマナーや仕事に向かう姿勢、社会の中でのお金の動きなど、基本的なことを学びました。「職場の雰囲気がとても明るく、先輩のみなさんに温かくご指導いただきました。現在は、銀行業務に必要な様々な資格を取得するための勉強に挑戦しています」日々の業務を終えた後に、勉強の時間をつくるのが難しいと感じることがあると語る木村さん。そんな時に思い出すのが、短大2年の6月に開かれた企業合同説明会だといいます。あの時の自分を思い出すとがんばろうと思えるというのです。「国際文化学科で主に情報経済や法律を学んでいた私は、将来、何らかの形で経済、法律に関わる仕事をしながら、仕事に必要な資格取得に挑戦したいと強く願っていました。現在の職場のブースの中で、必要な資格を学ぶ機会はあるかと盛んに担当者の方を質問攻めにしていた自分を思い出します」木村さんは、自分のスキル向上を強く願っていた初心を忘れず、資格取得への挑戦を続け、職場の期待に応えたいと思っています。



今以上に！ お客様に頼られる人になる

日新スズキ販売(株)水沢営業所 岩淵友太郎さん
●社会福祉学部 [平成20年3月卒]

「私は営業職ですが、車の営業という販売することだけが大切だと思われがちですが、車を購入いただく前から納車後のアフターサービスまで、お客様との長い付き合いが続きます。最も大切なのは、お客様の信頼を得ることなのです」という岩淵さん。岩淵さんは、お客様から「あなただから購入することにした」と言われるのが何よりも嬉しいといいます。今以上にお客様に頼られる人になること、それが岩淵さんの目下の目標です。社会福祉学部で心理学を学んだ岩淵さんは、就活では最初から一般企業を視野に入れていました。「心理学を学ぶ学生が一般企業を目指すのは珍しいことではありません。私は、どんな職業に就くにしても長く続けられる仕事を選びたいと思っていました」岩淵さんは、学生時代から車の好きさを自認していました。講義やバイトの暇をみつけてはカー用品のお店をのぞいて気に入ったパーツを買い込んで楽しんでいました。「好きなことに携われれば、つらいことでもがんばれると思った。結果的には今の仕事について正解でした。どこまでがんばれるか、自分を試してみたかったのかもしれませんが」という岩淵さんは今、学生時代の自分が思っていた以上に、がんばれていると感じています。



県大 YELLS のコーナーでは、
県立大学に寄せられたメッセージをご紹介します。

県大から未来への提案を！

社会福祉法人滝沢村保育協会 齊藤 栄子さん
川前保育園 園長



■ 親密な交流が続いています

私は、川前保育園に赴任して7年目になります。県立大学の学生さんが保育実習やサークルの活動で当園に来ることもあり、大学祭では園児のぬり絵を出品させていたでいます。また、秋に大学構内のどんぐり採りを園児が行い、春にはどんぐりから育てた苗を構内に植える活動に協力させていただいています。さらには、当園の園庭が狭いため県大が園児の散歩コースの一部となっています。言うなれば、県立大学は、私たち川前保育園の園外公園になっているのです。

■ とても開放的でフレンドリー

県立大学は、子ども達にとって歩いて行くのにちょうど良い距離にあり、緑も多く環境が豊かなので、園児のお気に入りの場所です。鳥、へび、季節の花々、木々の緑や落ち葉さえも園児の遊び心や感性を刺激してくれるので、楽しい時間を過ごさせていただいています。県立大学には、入りに

くいという感じが無く、開放的ですし、学生さんも園児達に親しく声をかけてくれます。私たち地域のものにとってもフレンドリーな感じがしています。また、おつきあいをさせていただいている学生さんの素直で明るく誠実な人柄をみると、なんて魅力的な校風の大学だと思えます。そんなこともあって、県立大学に散歩に出かける子ども達には、「みんながはいる大学だから、よく見てきてね」と大きく声をかけて送り出しています。

■ 安全な世界のために提案を期待

今回の大震災では、多くの人が被災し、私たちの誰もが心を痛めています。地震や津波は自然災害なので、どうしようもないかもしれません。でも、原発の事故は、人間の力でなんとかしなければなりません。今の時代に、原発をどのように活用すべきなのか私たちにわかりません。時代は、どんどん変わっていき、豊かさが無くなるのでしょうか。子ども達が大人になったときに、緑はあるのかと心配です。そんな不安を解消し、社会を少しずつでも良くできるような提案は無いのでしょうか。未来の安全・安心な社会を築くための良い提案を県立大学に期待しています。社会の安全・安心を築くための拠点として注目される大学になってほしいと願っています。

■ 元氣な川前太鼓の響きと共に

機会あるたびに県立大学との交流が続いています。昨年開かれた体育祭では、園



児による川前太鼓を披露いたしました。伝統太鼓の川前太鼓は、わらべ太鼓・豊年太鼓・曲太鼓と3種類あり、当園で23年にわたり続けられている取り組みです。和太鼓は、返事、あいさつ、感謝、たたくまいなどの教育の一環として取り組んでいますが、日々上達する園児の姿に感動すら覚えます。園児達は、川前太鼓の響きのように健やかに元気に育っています。いつの日かまた、披露できる機会があれば伺いたいと思います。